

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭61-161221

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)10月6日

B 65 D 5/44  
5/46

B-6540-3E  
A-6540-3E

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 包装箱

⑯ 実 願 昭60-45013

⑰ 出 願 昭60(1985)3月29日

⑱ 考 案 者	別 所	和 敏	豊中市春日町5-1-3-903
⑱ 考 案 者	宇 都	生 大	伊丹市北本町2丁目93 辻芳マンション402号
⑱ 考 案 者	井 上	伸 也	滋賀県野洲郡野洲町小篠原1858-89
⑲ 出 願 人	武田食品工業株式会社		大阪市長区道修町2丁目27
⑲ 出 願 人	本州ダンボール工業株式会社		東京都中央区銀座5-13-3
⑳ 代 理 人	弁理士 芦田 直衛		

明 細 書

1. 考案の名称

包装箱

2. 実用新案登録請求の範囲

- 1 妻板に手穴を有する外箱体と、外箱体内側に配置される2枚のスペーサパネルとからなり、前記各スペーサパネルは妻板に密着する垂直板と、これに延設される平面板とから構成され、前記垂直板には妻板の手穴に合致する透孔が設けられていることを特徴とする包装箱。
- 2 透孔は垂直板の上下2ヶ所の対称位置に設けられている実用新案登録請求の範囲第1項記載の包装箱。
- 3 平面板の長手方向端部には少なくとも1ヶ所の指掛け用切欠が設けられている実用新案登録請求の範囲第1項記載の包装箱。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案はアルコール飲料等ボトル詰めされる重

種のある化粧箱入りの商品を収納する包装箱に関する。

[従来の技術]

周知のようにボトル詰めされ、化粧箱に入れられた商品は、例えば6本、12本という単位ごとに段ボール製の包装箱に入れられ輸送運搬される。そして、これらの商品は包装箱内で移動したりすると、破損等のおそれがあるため、収納箱にタイトに収納されるのが通常である。

[考案が解決しようとする問題点]

ところで包装箱には、荷扱いの便利性から妻板に手穴を設け、荷扱い時には該手穴に手先を挿入して、持ち運びできるようにしてある。しかしながら、前記のように化粧箱に入れられた商品をタイトに収納した場合、手穴の深さが包装箱の妻板の厚さしかないため、手先を挿入することはもちろん、手掛けをすることも困難で、荷扱い上問題があると共に、無理して手先を入れて持ち上げたりすると包装箱はもちろん、収納してある化粧箱をも破損させることがあった。

また包装箱から商品を取り出す際には、商品が隙間なくタイトに収納されているため、初品の抜き出しが非常に困難で、包装箱の端部を破断して初品を抜き出し、しかるのち商品を取り出さなければならぬというような欠点がある。

〔問題点を解決するための手段〕

本考案は上記従来形の包装箱の欠点を排除するためなされたもので、妻板に手穴を設けてなる箱体内に妻板と密着し、妻板の手穴に合致する位置に透孔を設けてなる垂直板と垂直板に延設される平板とからなるＬ字形のスペーサパネル２枚をガクフチ状に向い合せて商品を挟持する状態で配置して、運搬、荷扱い時における商品の保護及び手穴の補強の効果を増大させると共に、商品の取り出し時にはスペーサパネルを取り出すことにより、包装箱内に隙間を作り、商品の取り出しを容易になしうるようにした包装箱を提供せんとするものである。

〔実施例〕

以下、図示の実施例にもとづき本考案の包装箱

について具体的に説明する。

第1図は本考案の一実施例で化粧箱入り商品を6個収納する包装箱に適用した例を示す斜視図であり、図中符号(1)は包装箱で、外箱体(2)と2枚のスペーサパネル(3)(3)よりなる。外箱体(2)は第2図の展開図に示すように、側板(4)(5)と妻板(6)(7)を一方向に折線(A)(B)(C)(D)を介して交互に接続し、側板(4)(5)及び妻板(6)(7)の上下縁にはいずれも同幅の天板(8)(9)(10)(11)と、底板(12)(13)(14)(15)がいずれも折線(E)(F)(G)(H)(I)(J)(K)(L)を介して延設され、さらに妻板(6)(7)の上端近くには手穴(16)(17)が設けられてなるものを、それぞれ折線にて角筒状に折り曲げ接合片(18)で接続するようにしてなるものである。

一方スペーサパネル(3)は、L字形で箱体の妻板(6)(7)の内側に密着させる垂直板(19)と同じく底部あるいは、頂部に配置される平面板(20)よりなる。すなわち第3図の展開図に示すように、矩形状シートに折線(H)を介して垂直板(19)と平面板(20)を接続区画し、垂直板(19)には、透孔(21)(22)を

設け、前記折線(H)部分で直角に折曲げるようにしてなるものである。前記透孔(21)(22)はスペーサパネル(3)を外箱体(2)内に挿入し、垂直板(19)と妻板(6)(7)を密着させた時、妻板(6)(7)に設けられた手穴(16)(17)に合致する位置に設けられ、しかも2枚のスペーサパネル(3)(3)をガクブチ状につき合せて外箱体内に配置使用するに当って、その平面板(20)を外箱体(2)の底部あるいは頂部のいづれにも位置させて使用することが可能となるように、上下2ヶ所に設けられている。

具体的には、妻板(6)(7)の頂部から、手穴(16)(17)の中央部までの距離を $L$ とした時、スペーサパネル垂直板(19)に設けられる透孔(21)(22)は一方(21)が垂直板(19)端部から、また他方(22)が、折線(H)からともに $L$ の距離となるよう対称位置に設けられている。

なお、スペーサパネル(3)の垂直板(19)及び平面板(20)の長手方向端部には、各2ヶ所の弧状の切欠(23)(24)(25)(26)が設けられており、この切欠(23)(24)(25)(26)は、開梱時に、スペーサ(3)を取

り出す時の指掛けとなる。

上記のような構成を有する本考案の包装箱(1)は次のようにして組立て使用する。

先づ外箱体(2)の側板(4)(5)、妻板(6)(7)を常法に従い各折線を介して折曲げ、接合片(18)で接続して角筒状とし、ついで底板(12)(13)(14)(15)をそれぞれ折線を介して内側に折曲げて相互に固着せしめる。そして、上記箱体(2)内に、折線(H)を介してL字形に折曲したスパーサパネルの一方(3)を、平面板(20)が箱体(2)の底部に位置し、かつ垂直板(19)が一方の妻板(7)と重なり合うように挿入したのち、前記平面板(20)上に商品(S)を配置収納して行くものである。そして、収納が完了した時点で、他方の妻板(6)内側に、もう一枚のスパーサパネル(3)の垂直板(19)を挿入し、平面板(20)を商品(S)の上面に載置させたのち、天板(8)(9)(10)(11)を各折線を介して内側に折曲げ、相互に固着する(第4図)。

次いで本考案の包装箱(1)から商品を取り出す場合について述べると、常法に従い、包装箱(1)の天

板(8)(9)(10)(11)を開破し、商品(8)上に載置されたスパーサパネル(3)の平面板(20)を立上げさせたのち、妻板(6)内側から、垂直板(19)を抜きとる。これにより、商品(8)と妻板(6)間に隙間ができるので、商品(8)を容易に取り出すことができる。

なお、本考案は上記実施例に限定されるものではなく種々の変更、修正が可能であることは言うまでもない。


#### [考案の効果]

本考案の包装箱は上記のような構成であるから以下のような効果を奏する。

すなわち、箱体内に2枚のスパーサパネルを配置したため、商品の安定がよく、しかも商品をタイトに収納することができる。また2枚のスパーサパネルが商品を四方から挟みこむ状態となるため、商品の保護の上で絶大の効果を奏する。

さらにスパーサパネルには妻板の手穴に合致する位置に透孔が設けられているため、手穴が深くなり、運搬、荷扱い時に極めて至便であると共に、手穴を補強する効果を奏する。





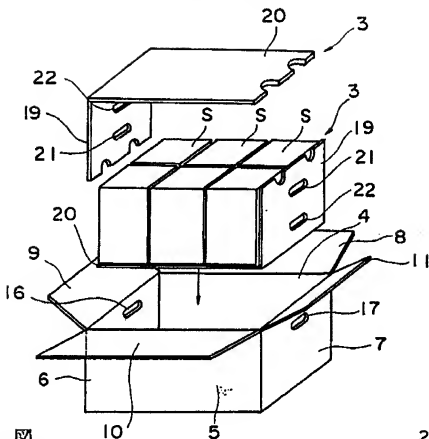
また箱体内に挿入配置される2枚のスペーサパネルは垂直板に上下2つの透孔を有し、平面板が外箱体の底部あるいは頂部のいずれに位置した場合であっても、前記透孔のいずれかが妻板の手穴と合致するようになっており、2枚のスペーサパネルを互いに兼用することが可能であるばかりか、スペーサパネルの形成時には、同一形状のものを作るだけでよくコスト低下にも効果を奏する。

#### 4. 図面の簡単な説明

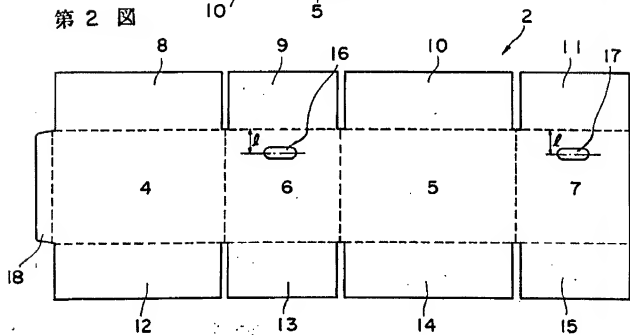
第1図は本考案の包装箱の一実施例を示す斜視図、第2図は同上外箱体の展開図、第3図は同上スペーサパネルの展開図、第4図は包装箱内に商品を収納した状態を示す断面図である。

1…包装箱、2…外箱体、3…スペーサパネル、  
4、5…側板、6、7…妻板、8、9、10、11…  
天板、12、13、14、15…底板、16、17…手穴、  
18…接合片、19…垂直板、20…平面板、21、22…  
透孔。

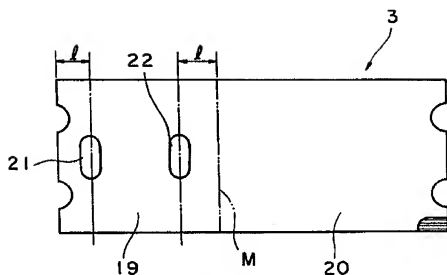
第 1 図



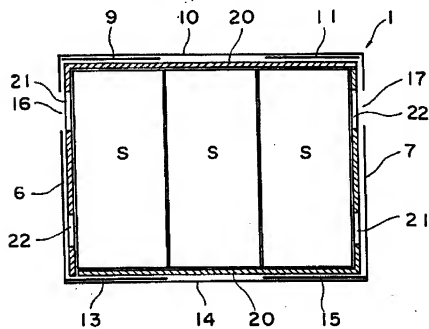
第 2 図



第 3 図



第 4 図



品工業株式会社  
ホール工業株式会社

石田直爾

235

実開61-16122J